

作業員らと一緒にご飯を植える児童



芝張り工事のお手伝い

河川公園で見学会

日田市大山振興局は、筑後川河川事務所と川浪組（川浪龍哉社長）の協力を得て、先日、西大山の榎瀬橋下河川敷で河川公園の整備見学会を開いた。大山小学校4～5年生43人と老松自治会の住民を招き、市や同事務所日田出張所、工事関係者など合わせて約70人が参加した。

大山小児童ら70人

地域住民からの要望もあり、同河川事務所が河川整備の一環で2900平方メートルを整備。工事（工事名・筑後川大山地区高水敷補修工事）は川浪組が約2600万円で購入し補修している。

参加。芝張りを請負っている新日本緑地関係者に指導を受けながら芝を張った。見学会の終わりに、公園入口の沿道に川浪組が寄付した350鉢の芝を全員で植えた。

杉町英明同事務所日田出張所長や大山振興局関係者が大山川の状況や工事の仕方について説明。子供たちは工事までの経緯などをメモ帳を手記に熱心に聞いていた。この後、実際の工事に

工事の際に、地域住民とのコミュニケーションや交流をと、地域参加型の工事を心がけたいという川浪社長は「見学会などを通し、建設現場の見学や工事への参加機会をつくることで、地域住民の工事への理解を深めることができれば」と話していた。

（岩下）

川や広場に親しんで…整備見学会
で芝張り作業をする大山小児童ら



河川「芝生広場」に

川の合流地点保護工事

大山小児童“お手伝い”

国交省が補修を進める白田市大山町中川原の
大山川・赤石川合流地点の河川広場（約三千平
方）で、整備見学会があり、近くの大山小学
校（高石光治校長、八十三人）や地元老松自治
会（秋吉義徳会長）が芝張り作業をした。

同所は梅雨時期のダム放と、自治会の十数人が参加。
流では毎秒八・五リにもな 特殊な工法を駆使した工事
る流速の速い場所。広場は の内容を聞いた後、最後と
旧町時代に「水辺プラザ構 なる三百枚の芝を張り、芝
想」で整備されたが、堤防 生広場」を完成させた。土
の内側が浸食されてしま 手伝いにはシバクラも植
い、ことし一月から保護工 我、六年の宮原優人君（三
事を開始。水に流されにく 顔写真）は「石がころこ
いまに特殊なマットを敷 ろしてしたが、きれいになっ
いて芝を張る作業を進めて た。（芝が
いる。工事最終段階になり、 生えたら）
子どもたちの学習に活用 サッカーが
川や広場に親しみを感して したい」と
もらおうと見学会を開い についで、梅雨が終わるま
で芝を養生させ、七月ろ
た。
四十六年生の四十三人 から使用する。



生えたら）
サッカーが
したい」と

今月完了の大山川河川公園工事
地元住民や児童が見学
 芝張り、シバザクラ植栽体験も

芝張りを体験する大山小の児童ら



大山町の事業で公園として整備されたが、洪水で芝生が流されたままになっていた。工事は、芝生を張り直して河川敷の浸食を防ぎ、住民にもっと水辺に親しんでもらうのが目的で、筑後川河川事務所が一月から約三千万円かけて整備している。

二月二十四日にあった見学会の参加者は、水で流されないように特殊なマットの上に芝を植えていることなど工事の説明を受けた後、実際に芝張り作業を体験。土手治いにシバザクラの苗三百二十本も植えた。森大輝君(一〇)は「芝生が成長して遊びに来るのが楽しみ」と話していた。

現場は、芝生が根付く梅雨明けまでは、立ち入りは禁止となる。

日田市大山町中川原地区の大山川河川公園工事が三月に完了するのをはじめ、工事関係者がこのほど、地元住民を招いて現場見学会を開いた。大山小児童四十三人と、地元の老松自治会(秋吉義徹会長)の十数人が参加し、芝張り作業やシバザクラ植栽を体験した。一帯は二〇〇三年、旧